

名古屋大学キャンパス・ユニバーサルデザイン・ガイドライン 2015」の発行

Nagoya University Campus Universal Design Guideline 2015

名古屋大学 施設・環境計画推進室, 工学部施設整備推進室, 障害学生支援室, 男女共同参画室, 国際教育交流センター, 財務部財務課, 教育推進部学生支援課, 施設管理部

0204

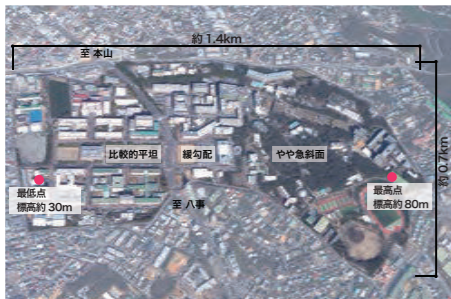


図1. 名古屋大学全景 (東山キャンパス)



図2. UDガイドラインの表紙。8部署の教職協働による成果。

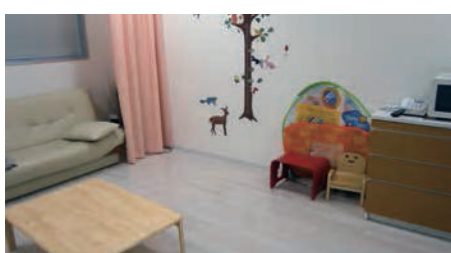


図4. 男女共同参画の推進に向け、女性教員の休養や授乳に対応した室の整備方針を示した。

- 第1章 名古屋大学キャンパス・ユニバーサルデザイン・ガイドラインの理念**
- 1.1 背景 | 大学キャンパスにおけるユニバーサルデザインの意義
 - 1.2 目標 | 名古屋大学キャンパス・ユニバーサルデザインの推進
 - 1.3 ユニバーサルデザイン・ワーキンググループの設置と検討の経緯
 - 1.4 名古屋大学キャンパス・ユニバーサルデザイン・ガイドラインの構成
- コラム1 ユーザーを想定せず、ユーザーの立場にたったデザイン (工学部施設整備推進室)
コラム2 UDにおける利用者の個別性の問題 (障害学生支援室)
- 第2章 キャンパスの現状と課題**
- 2.1 多様な構成員から見た現状と課題
 - 2.1.1 視覚障がい者の視点
 - 2.1.2 聴覚障がい者の視点
 - 2.1.3 病弱・虚弱、内部障がい者の視点
 - 2.1.4 肢体不自由者の視点
 - 2.1.5 外国人留学生等の視点
 - 2.1.6 男女共同参画の視点
- コラム3 障がいに関する法律の変化と課題 (障害学生支援室)
コラム4 ウェブサイトによる子育て関連情報の発信 (男女共同参画室)
- 2.2 管理者から見たキャンパスの現状と課題
 - 2.2.1 東山キャンパスの現状
 - 2.2.2 現状調査
 - 2.2.3 財源の現状
 - 2.2.4 利用者参画の必要性

- コラム5 子育てと仕事の両立をサポートする空間 (工学部施設整備推進室)
コラム6 施設管理部 website (施設管理部 新美雅則)
- 第3章 これからの施設整備**
- 3.1 施設整備の指針
 - 3.1.1 施設整備の流れとユニバーサルデザイン・レビュー
 - 3.1.2 部位別の標準仕様
 - 3.1.3 多様な構成員に対する特に配慮すべき事項
 - 3.1.4 屋外環境に対する特に配慮すべき事項
 - 3.1.5 サインに対する特に配慮すべき事項
- コラム7 人々の不適切な利用や二次的に生じるバリア (障害学生支援室)
コラム8 地域連携 (工学部施設整備推進室)
- 3.2 マネジメントの指針
 - 3.2.1 PDCA (Plan-Do-Check-Act) の必要性
 - 3.2.2 既存施設改善整備の優先順位
 - 3.2.3 財源確保と中長期保全計画との関係
 - 3.2.4 利用者の参画とUD会議
- コラム9 障がいのある学生と関わり (障害学生支援室)
コラム10 三者三様のUD (施設管理部)
- 第4章 まとめ**
- 4.1 将来に向けた課題
 - コラム11 キャンパスサインの在り方や大学におけるサイン計画の可能性 (施設管理部)
 - コラム12 デンマークにおける非バリアフリーな環境と気配り (施設・環境計画推進室)

図3. 全体は大きく4章で構成し、12のコラムにより小さいが重要な事項に触れた。

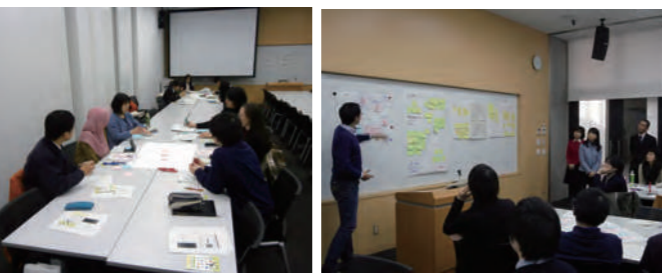


図5. 異なる障害をもつ学生4名, 外国人学生・教員4名, 健常学生 (障害サポート2名, 建築学生4名), 国際支援教員2名, らによるワークショップ。WGメンバーがファシリテーターとなり、最終的に4班それぞれの発表を行った。障害学生の視点として、視覚障害学生にとって有益な点字ブロックが肢体不自由学生にとっては障害になることが明らかとなり、WGメンバーの認識が一掃させられた。また、WS時点で約1800名の外国人留学生を2023年に3000名受け入れると謳う一方、学食メニューが日本語しか無いことなど情報面での貧弱さ、ワストップの総合サポートセンターの未整備など基本的な環境整備の必要性が浮かび上がった。



図6. シンポジウムでは島根大学の田中教授を迎え、基調講演, WGメンバーとの対談を行った。大学施設マネジメント研究会として開催し、多くの大学関係者を迎えた。



図7. キャンパスの現状を丁寧に見直し、課題の抽出を行った。

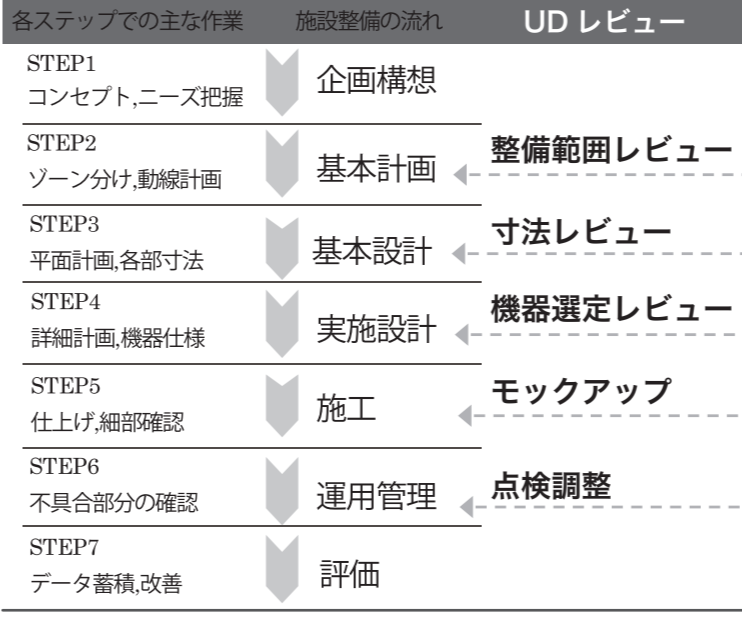


図8. UDガイドラインで新たに定めた施設整備の各ステップにおけるUDレビューのフロー。UDレビューは障害学生, 国際教育, 男女共同参画などの支援組織が行う。データは次の整備にフィードバックされる。

公開性	1	2	3	4	5	6	7
学外来訪者: 多 学内構成員: 多 人数: 大			5 一般開放する公開施設 ホール・記念館等			6 公開施設 全学共通施設 講義室・図書館等	7 福利厚生施設 食堂・売店等
学外来訪者: 多 人数: 大		3 入試等で使用する施設 入試使用講義室等					
学内構成員: 多 人数: 小			3 共同研究室 共同実験室	4 研究・実験施設	5 研究室・院生室 実験室		
	低	1 年・二回	2 開館時・バカ	3 毎週~毎日	4 ほぼ毎日	高	
							利用頻度

図9. 施設整備の優先順位を公開性と利用頻度から定めた。

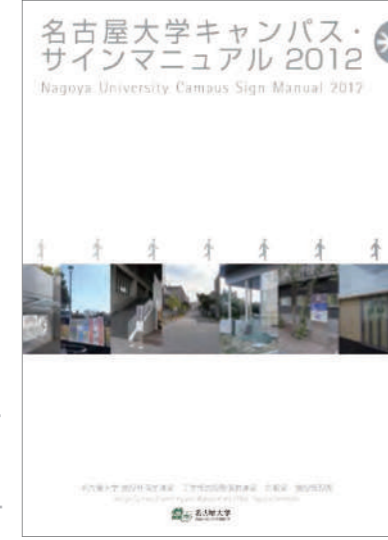


図10. CMPに基づいて、障害者や弱視の方に配慮した設置高さ, 色彩, 大きさ等を規定したサインマニュアルの延長としてUDガイドラインを発刊した。

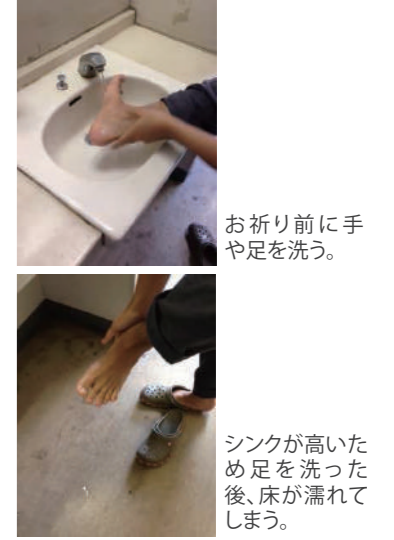


図11. WSにおける留学生の要望より、お祈りの場としてコパソレシヨナルーム, 洗面所に脚洗い場を盛り込んだが、学内の指摘により削除された。今後の課題である。

【背景】名古屋大学 (以下、名大) では教育の機会均等の実現, 大学の知的資産の活用に向けキャンパス整備に取り組んでおり, H28 年度中期目標・中期計画では「**自律的な学習と生活を支援する環境を充実, 外国人留学生を10%以上増, 男女共同参画の推進**」と謳っている。多様な構成員を有するキャンパス (図1) として, これまで全学的な共通基準がなく, 建物単体でのバリアフリーの整備にとどまっていた状況を改善する指針が求められた。**【方針】**本年度、名大では「キャンパスマスタープラン2010」(CMP2010) の改訂を進めているところだが, 広く**ユニバーサルデザイン (UD) の観点**からキャンパス環境の整備を推進すべく「**名古屋大学キャンパス・ユニバー**

サルデザイン・ガイドライン 2015」を発行することとした (図2)。**【体制】**学内の施設整備に関わる関係部署として, 施設・環境計画推進室, 工学部整備推進室, 施設管理部のほか, 男女共同参画室, 障害学生支援室, 国際教育交流センター, 財務部, 教育推進部から成る**全学を横断する教職協働**によるワーキンググループ (WG) を結成した。**【構成】**H26 年度初頭より1年間にわたり10回のWGを開催し, 提案と議論を深め, 4章構成としてまとめた (図3)。その間, 他大学における取り組み調査 (東大, 阪大, お茶大, 九大, H26.9), 女性休養室の学内調査 (図4)、多様な障害当事者との現地調査 (H26.11), 障害学生, 外

国人教員・留学生, 健常学生とのワークショップ (H27.2, 図5), UDの専門家を交えたシンポジウム (H26.12, 図6) を開催し, 意見の洗い出しと提言に向けた集約, UD整備の向かうべき方向性について, 検討を深めた。第2章では**多様な構成員・来訪者からみたキャンパスの現状と課題の整理** (図7), 第3章3.1では**ハード面としての施設整備の方針** (図8), 第3章3.2では**ソフト面としてのマネジメントの指針** (図9), 第4章では将来展望について整理した。**【既設指針との連携】**H24に発刊した「**名古屋大学キャンパス・サインマニュアル2012**」 (図10) は, 誰に対しても利用しやすいサインの指針である。サインマニュアル

の延長に位置づけられるUDガイドラインは, CMPにおけるUD整備の全学共通の指針となる。**【展望と課題】**計画・設計・施工・運用の各過程において**UDの視点から検証**を行い, 後の整備計画に**フィードバック**する**ファシリティ・マネジメント手法** (図8) として, 全国の大学に先駆けて発刊したガイドラインの取り組みを実現していくのが今後の重要な仕事である。課題として, 留学生の環境整備として何をどこまで整備するかについて挙げておきたい。宗教に関わる事項は, 学内でも多様な意見があり, WGでは重要と認識しつつも共通指針を提示することが困難であった。